

トップコミットメント&ハイライト

## ハイライト

### Highlight 5 ハイライト | 紙の調達—持続可能なモデルを目指す

私たちの生活に欠かすことのできない紙。しかし現在、この紙を安価に供給するために、熱帯雨林地帯の天然林が違法伐採され、貴重な自然環境が大規模に破壊され続けている。普段何気なく手にしている紙は、実は天然林の消失と引き換えにつくられたものかもしれないのだ。では、自然環境を守りながら、紙を使い続けるにはどうすればいいのだろうか。

#### 用紙調達規程が動き出すまで

富士ゼロックスは以前から持続可能な紙の供給に向けた取り組みを続けてきた。日本国内では、2002年に富士ゼロックスオフィスサプライとともに「環境配慮型パルプ増配合計画」を開始。商品であるコピー用紙の原料を、すべて「環境配慮型パルプ」(古紙パルプと、持続可能であるよう適切に管理された森林を原料としたバージンパルプ)とすることを目標としている。2008年までにこの目標を達成する見込みだ。

しかし、紙の問題は地球規模の環境問題である。その解決のためには日本国内だけでなく、世界全体で取り組まなければならない。このために、富士ゼロックスは2004年12月、「環境・健康・安全に関する用紙調達規程」を制定した。<sup>※1</sup>

この規程では、国内外の富士ゼロックスとその関連会社が調達する用紙について、法律や規制の順守、原料のパルプが持続可能な管理がなされている森林から供給されたものであること、再生パルプは原料古紙の供給元が明らかであることなどを求めている。これは、天然林違法伐採由来のものを一切排除するという富士ゼロックスの明確な意思表示である。

そして、2005年度からこの規程に適合した用紙調達を実施するため、国内外の調達先との交渉を開始した。

まず、調達先の製紙会社に対し、それぞれの紙について、バージンパルプと古紙の割合、バージンパルプの種類・産地・植林もしくは認証林かどうか、無塩素漂白か、などの調査と、その内容を保証する誓約書の提出を求めた。調査の結果、規程に適合しなかった場合は、仕様変更を依頼。それが不可能な場合は調達先を変更することとなる。日本国内については、富士ゼロックスオフィスサプライが窓口となって製紙会社5社との交渉にあたり、問題なく規程への適合が確認された。販売会社のオフィス用品通信販売サービスの取り扱い品目の中に規程不適合のコピー用紙が含まれており、急きょ販売を停止するなどの事例はあったものの、国内では調達先の大きな変更もなく、計画はスムーズに進んだ。

#### 紙に関するステークホルダーの持続可能な紙の供給への取り組み

企業・団体名	2005年度の進捗
WWF Japan (世界自然保護基金 ジャパン)	<ul style="list-style-type: none"> <li>紙の責任ある調達への普及活動(セミナー開催など)</li> <li>インドネシア・スマトラ島での紙の生産による森林破壊問題解決への取り組み</li> <li>WWFジャパン林産物調達方針・アクションプランの策定</li> </ul>
GPN (グリーン購入ネット ワーク)	<ul style="list-style-type: none"> <li>印刷情報用紙のガイドラインを改訂……製紙原料は環境に配慮したバージンパルプも可とするよう変更 白色度が過度に高くない制限を撤廃</li> <li>上記のガイドライン改訂に伴う商品データベースの改正</li> </ul>
王子製紙	<ul style="list-style-type: none"> <li>輸入チップにおける植林木と森林認証材の増産を達成</li> <li>自社海外植林面積の拡大</li> <li>原料のトレーサビリティレポートの作成</li> </ul>
富士ゼロックス オフィスサプライ	<ul style="list-style-type: none"> <li>コピー用紙などの環境配慮型パルプ配合率90.8%を達成</li> <li>機密文書回収システムの販売開始</li> <li>森林認証商品の増加</li> </ul>
富士ゼロックス	<ul style="list-style-type: none"> <li>グローバルで用紙調達規程の順守を達成</li> <li>自社で使用した紙を再び自社で使用する仕組みである水平リサイクルシステムのトライアルを開始</li> </ul>

一方海外では、それまで各販売会社が個別で紙の調達先を決めていた。そのため、まず何のためにこれらの調査や交渉が必要なのかという説明を行ない、各社の理解を求めなければならなかった。

調べてみると多くの海外販売会社が、違法伐採由来の紙を生産している可能性のある製紙会社から調達を行なっていることがわかった。違法伐採由来の紙は安いからだ。これらの調達先を排除すると必然的に紙の仕入れコストが上がり、営業競争力に影響をおよぼす。そのような損失を負ってもなお、環境に配慮した紙の調達が重要なのだという理解を営業の現場にまで浸透させていくことが、各販売会社担当者、そして海外での計画推進の窓口である富士ゼロックス海外営業本部の重要な仕事となった。

しかし各国ごとの活動では製紙会社での調査が進まず、富士ゼロックス海外営業本部に窓口を一本化して製紙会社に働きかけることになった。規程に適合しなかった約1/4の調達先の代替調達先の選定は難航したが、富士ゼロックスオフィスサプライやWWFなどのNGOからの情報提供を受けつつ市場の要求する価格に合う代替調達先を探し、2005年度末までにほぼ規程通りの調達体制の整備を実現することができた。<sup>※2</sup>

※1 「環境・健康・安全に関する用紙調達規程」参照

※2 長期購入契約の契約期間が残っている海外の1社を除く

#### 環境に配慮した紙を使うことが当たり前の時代へ

もちろん、これで取り組みが終了したわけではない。今後も年度ごとに、調査と誓約書の提出を求め、規程への適合の維持が必要となる。また、カタログなどの印刷用紙や、請求書、封筒などのオフィス内で使われる紙の規程適合については2006年度以降の課題として残されている。

しかし、紙の調達において、その合法性・持続可能性に配慮し、違法伐採由来のものを排除するシステムをスタートさせたことには、大きな意味がある。

現在、紙の調達に際し、合法性や管理された森林由来であることを求める企業が増加し始めている。GPNは森林認証材や植林木を原料とする

紙の使用を推奨するよう、グリーン購入のガイドラインを改訂した。国のグリーン購入法でも、合法性が確認されていることが、紙の購入基準に追加された。

このように、日本では違法伐採排除の動きが少しずつ大きくなっている。これをアジア・パシフィック地域全体に広げ、やがて環境に配慮された紙を使うことが当たり前の時代、天然林が紙として消えることなく、その豊かな自然をいつまでも保っていける時代がくるよう、これからも富士ゼロックスは持続可能な紙の調達への取り組みを続けていく。

#### ■ 先進的な取り組みを誇りに思います

アジア・パシフィック地域の販売会社での用紙調達規程の展開の窓口を担当しました。各販売会社の担当者にご調査の意図を理解してもらい、社内で展開してもらうことがまず大変でした。また、調達先が不適合だった場合、特にその用紙が特殊なものだった場合、代替の調達先を探すのにもかなり苦労しました。今回の取り組みは、私たちの未来を考え、持続可能な社会の実現に役立つことであり、富士ゼロックスが世の中をリードする活動を行なっていることを非常に誇りに思っています。



富士ゼロックス  
海外営業本部  
張暉(Yvonne Zhang)

#### ■ 森林破壊に歯止めをかける姿勢を評価します

“法律や規制の順守”や“原料の供給元の把握”など、ご当たり前に行われているはずと思われがちですが、林産品を消費する業界ではまだまだ徹底されていません。そのような中、購入企業の責任として取れる対策を明確化し、着実に進められており、環境問題の解決に向けて多大な貢献をされていると思います。今後さらには、生物多様性を維持し天然林の消失に歯止めをかける貢献の余地が貴社には多くあると思います。そうした貴社の取り組みが環境に配慮した社会作りへつながることをさらに期待します。



グリーンピース・ジャパン  
森林問題担当  
尾崎由嘉氏